

# レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)の 5年間留置後の再挿入の背景に関する検討

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2023年 3月 24日 ～ 2024年 3月 31日

## 〔研究課題〕

レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)の5年間留置後の再挿入の背景に関する検討

## 〔研究目的〕

レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)は挿入後5年で抜去し再挿入を検討します。しかし再挿入を要するリスク因子の検討はされていません。リスク因子の検討がされていれば、長期的な治療計画に立案に有用と想定され、治療の改善につながると考えられます。

そのため再挿入を要した・ないし再挿入不要だった患者の年齢・症状・疾患について検討し、再挿入を要するリスク因子の解析を目的とします。

## 〔研究意義〕

本検討によりリスク因子を解析し、事前の把握によって長期的な治療計画立案の幅を広げる一役となることを目的とします。

## 〔対象・研究方法〕

当院で2014-2017年にLNG-IUSを挿入した173例を対象とします。診療録を用いて後方視的に5年間留置できた症例のうち、再挿入を要した・ないし再挿入不要だった患者の年齢・症状・疾患について検討し、再挿入を要する背景因子の検討を行います。解析は $\chi^2$ 検定、Wilcoxon検定を用います。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。また、研究終了後にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管後に廃棄いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：馬場 聡 職名 帝京大学ちば総合医療センター産婦人科・助教  
所属：帝京大学ちば総合医療センター  
住所：市原市姉崎 3426-3 TEL：0436-62-1211 (代表) [内線 5108]